

- 実施主体：岡山県苫田郡鏡野町 ■ダム活用箇所：ダム湖・周辺環境 ■所在地：岡山県苫田郡鏡野町
- ダム管理者：国土交通省中国地方整備局苫田ダム管理支所 ■ダム完成年：2004（平成 16）年
- ダム形態：重力式コンクリートダム

■取り組みのポイント

- ①鏡野町がモンベルのフレンドタウンとなって、モンベルが展開しているスポーツイベントを誘致。モンベルがリードし、地元が運営する形で 300 人規模のスポーツイベントが継続して実現。
- ②参加者は、1泊しないと参加できないイベントなので、地域に宿泊や飲食の需要が生まれる。
- ③定員を 300 人とあまり大がかりにしておらず、また、競争ではないので交通規制をしていないので、イベント開催のハードルが比較的低く、継続しやすいものとなっている。

■取り組みの概要

- ・ 2009 年アウトドアを楽しみながら自然について考えてほしい、「自然体験を通じて、里山の地域おこしに協力したい」との想いで、地元自治体とモンベルの協働により地域の自然の中でカヤック、バイク、ランの 3 種目を楽しむ「SEA TO SUMMIT」がスタート。2019 年度は全国 13 大会を実施。
- ・ 鏡野町はモンベルのフレンドタウンとなり「SEA TO SUMMIT」を誘致。2017 年に第 1 回目の「SEA TO SUMMIT」を開催。2019 年で第 3 回目となる。
- ・ 令和元年 10 月モンベルと鏡野町が包括連携協定を締結。



カヤックの発着地点及びバイクへの乗り換え地点となっている、みずの郷奥津湖の湖畔広場。通常は車両進入禁止となっているが、大会のために開放。カヌー～自転車～トレイルランの順に実施。



〔湖のステージ〕ダム湖である奥津湖で 7km をカヌーで周回

〔里のステージ〕奥津湖畔～人形峠を 24.5km を自転車で走る。

〔山のステージ〕人形峠～高清水高原頂上まで 1.5km のトレイルラン

■人・組織

- ・モンベルのリードの基で、鏡野町が事務局となって大会を運営し、苫田ダム管理支所は大会運営に協力している（詳細は下記「しくみ」を参照）。

■しくみ

〔事業スキーム〕

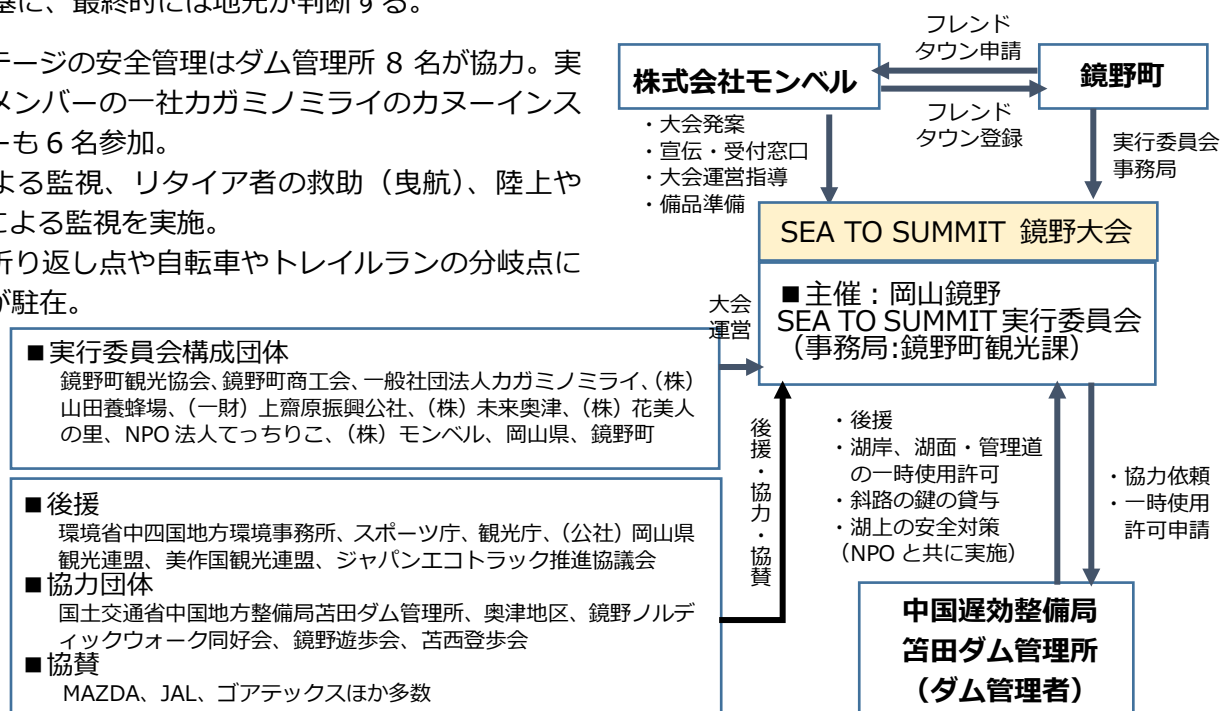
- ・鏡野町が事務局となって地域の様々な組織と共に「岡山鏡野 SEA TO SUMMIT 実行委員会」を組織。当日の運営を地域で担う。
- ・モンベルは全国 13 カ所の会場の一つとして鏡野大会をリード。大会の広報、スポンサー探し、参加者受付、イベントに必要な備品（ゼッケンやスリットカード※）の提供等を担っている。
- ・中国地方整備局苫田ダム管理所は、実行委員会から協力要請を受けて、湖岸や管理道の一時使用の許可を出す他に当日の湖上の安全管理なども行っている。（※ポイントを通過したことを証明するカード）

〔運営計画〕

- ・運営スタッフはモンベルが約 4 名、地元が 70 名程度。

〔安全対策〕

- ・天候等による開催中止の判断は、モンベルの経験に基づいた意見や、苫田ダムの風速や流速データを基にした意見を基に、最終的には地元が判断する。
- ・カヌーステージの安全管理はダム管理所 8 名が協力。実行委員計メンバーの一社カガミノミライのカヌーインストラクターも 6 名参加。
- ・巡視船による監視、リタイア者の救助（曳航）、陸上や CCTV 等による監視を実施。
- ・カヌーの折り返し点や自転車やトレイルランの分岐点にスタッフが駐在。



SEA TO SUMMIT 鏡野大会 事業スキーム

■地域連携方策

- ・参加者は大会前日に受付を済ませる必要があるため、1 泊しないと参加できないイベントなので、宿泊・飲酒の奥需要が発生して、地域への貢献になっている。選手だけでなく、家族や仲間を連れてくる人も居るので宿が取れない状況になる。
- ・地域のカヌー、自転車、山岳等の関連団体が協力してイベントを行う中で大山のように、新たなイベントが生まれた地域もある。

■取り組みの成果

- ・環境スポーツイベントという位置づけで開催しており、全国紙のメディアが取り上げてくれるので PR 効果は高い。雑誌で 2～3 頁の特集を組んでくれたこともある。
- ・参加者は 1 泊しないと参加できないイベントなので、宿泊や飲酒の奥需要が発生して、地域への貢献になっている。選手だけでなく、家族や仲間を連れてくる人もいるので宿が取れない状況になる。